



©2005 石塚真一小学館

第 325 号(令和5年(2023 年)12 月 27 日)

信州の山岳遭難現場と全国の登山者をつなぐ
特別隊員

島崎 三步 の「山岳通信」

この通信は長野県の山岳地域で発生した遭難事例をお伝えし、「安全登山」のための情報提供をしています。(詳細は以下のとおり)

～冬山における安全登山の呼び掛け～ 12 月 26 日県警山岳安全対策課広報

12 月 25 日、26 日と八ヶ岳連峰で相次いで山岳遭難が発生し、統計史上最多となる 301 件の遭難を記録するなど、年末年始を前に冬山における遭難の多発が懸念されることから登山者等に改めて注意を呼び掛けます。

具体的な注意点

- (1) 事前の気象情報の確認
- (2) 余裕を持った計画
- (3) 装備品の携行
- (4) 雪崩に対する警戒
- (5) 登山計画書の作成と共有

詳細は、最終ページ

～スキー場及び

バックカントリーエリアにおける
外国人向け安全啓発動画及び
記事を公開～

[https://db.go-nagano.net/en/
staying-safe-in-the-backcountry/](https://db.go-nagano.net/en/staying-safe-in-the-backcountry/)



天気・防災情報 <https://www.jma-net.go.jp/nagano/>

信州 山のグレーディング <https://www.pref.nagano.lg.jp/kankoki/sangyo/kanko/gure-dexingu.html>
を確認し万全の準備で入山を！

長野県警山岳安全対策課からのワンポイントアドバイス

12 月 3 週は、八ヶ岳連峰赤岳における転倒による遭難が 1 件発生しました。

遭難者は、テント場の地面が凍結していたことにより足を滑らせて転倒し、負傷したものです。

寒暖差により、日中溶けた場所が朝晩の冷え込みで凍結している場合があります。場所によっては降雪や落葉で凍結箇所が隠れているところもありますので、歩行する際は慎重な行動が必要です。

行動中、アイゼンを装着するべきか悩む場所もあると思いますが、スリップ防止のために早い段階で装着することも滑落や転倒防止になります。

12 月 4 週は、南木曾岳において転倒による遭難が 1 件発生しました。

遭難者は、5 人パーティで下山中に登山道上の階段を踏み外して転倒、負傷したものです。発生時間が日没間際であったため、深夜に及ぶ救助活動となり、非常にリスクが伴う活動となりました。トラブルの発生に備え、早めの行動を心掛けてください。登山中に気持ちが焦ると余裕がなく注意散漫となりやすく、転倒や滑落などのリスクが高まります。気持ちに余裕を持つためにも、「早出早着」を心掛け、時間にゆとりを持った早めの行動をお願いします。

寒波の影響で積雪が増えている山域があります。12 月半ばには、気温が高く雨が降った影響で雪面の状況が不安定な場所もあり、積雪が増えると雪崩に注意が必要です。入山する際は、必ず最新の情報をチェックし、「雪崩ビーコン・プローブ・ショベル」など、雪崩に対応した装備品の携行をお願いします。

発生状況:

| 日付 | 場所 | 性別 | 年齢 | 死傷別 | 態様 | 概要 |
|--------|-------------|----|----|-----|----|--|
| 12月14日 | 八ヶ岳連峰 赤岳 | 女 | 44 | 負傷 | 転倒 | 2人パーティで赤岳に入山し、テント場の地面が凍結していたことにより足を滑らせ、転倒、負傷 |
| 12月24日 | 南木曾岳 | 女 | 47 | 負傷 | 転倒 | 5人パーティで南木曾岳に入山し、下山中に階段を踏み外し、転倒、負傷 |

令和5年(2023年)中の山岳遭難発生状況(令和5年(2023年)1月1日~12月24日)

| 区分 | 発生件数 | 死者 | 行方不明 | 負傷者 | 無事救出 | 遭難者計 | 内)死傷者 |
|-------------|------|----|------|-----|------|------|-------|
| 令和5年(2023年) | 299 | 37 | 3 | 158 | 131 | 329 | 198 |
| 内)単独登山 | 111 | 19 | 0 | 53 | 39 | 111 | 72 |
| 令和4年(2022年) | 280 | 37 | 4 | 137 | 127 | 305 | 178 |
| 前年同期比 | +19 | ±0 | -1 | +21 | +4 | +24 | +20 |
| 内)単独登山 | +12 | +2 | -3 | +15 | -2 | +12 | +14 |

■山域別発生状況(令和5年(2023年)1月1日~12月24日)

| 区分 | 件数 | 件数 比率 | 死者 | 行方不明 | 負傷者 | 無事救出 | 遭難者計 |
|-------|-----|----------|----|------|-----|------|------|
| 転・滑落 | 87 | 29.1% | 23 | 0 | 66 | 0 | 89 |
| 転倒 | 74 | 24.7% | 0 | 0 | 74 | 0 | 74 |
| 病気 | 24 | 8.0% | 3 | 0 | 0 | 21 | 24 |
| 道迷い | 30 | 10.0% | 0 | 0 | 0 | 42 | 42 |
| 落石 | 8 | 2.7% | 1 | 0 | 7 | 0 | 8 |
| 雪崩 | 3 | 1.0% | 3 | 0 | 2 | 1 | 6 |
| 落雷 | 0 | 0.0% | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 疲労凍死傷 | 42 | 14.0% | 3 | 0 | 0 | 45 | 48 |
| 不明・他 | 31 | 10.4% | 4 | 3 | 9 | 22 | 38 |
| 計 | 299 | | 37 | 3 | 158 | 131 | 329 |

■態様別発生状況(令和5年(2023年)1月1日～12月24日)

| 区分 | 件数 | 件数比率 | 死者 | 行方不明 | 負傷者 | 無事救出 | 遭難者計 |
|-------|-----|-------|----|------|-----|------|------|
| 転・滑落 | 87 | 29.1% | 23 | 0 | 66 | 0 | 89 |
| 転倒 | 74 | 24.7% | 0 | 0 | 74 | 0 | 74 |
| 病気 | 24 | 8.0% | 3 | 0 | 0 | 21 | 24 |
| 道迷い | 30 | 10.0% | 0 | 0 | 0 | 42 | 42 |
| 落石 | 8 | 2.7% | 1 | 0 | 7 | 0 | 8 |
| 雪崩 | 3 | 1.0% | 3 | 0 | 2 | 1 | 6 |
| 落雷 | 0 | 0.0% | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 疲労凍死傷 | 42 | 14.0% | 3 | 0 | 0 | 45 | 48 |
| 不明・他 | 31 | 10.4% | 4 | 3 | 9 | 22 | 38 |
| 計 | 299 | | 37 | 3 | 158 | 131 | 329 |

■男女別・年齢別比率(令和5年(2023年)1月1日～12月24日)

| 区分 | 男性 | | | | | (人) | 女性 | | | | | (人) | 男女計 | |
|-------|-------|----|-----|----|-----|--------------|-------|----|----|----|-----|-------------|-----|--------------|
| | 死者 | 不明 | 負傷 | 無事 | 計 | | 比率 | 死者 | 不明 | 負傷 | 無事 | | 計 | 比率 |
| 19歳以下 | 0 | 0 | 1 | 6 | 7 | 52 23.2% | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 14 13.3% | 10 | 66 20.1% |
| 20代 | 0 | 0 | 9 | 15 | 24 | | 0 | 0 | 3 | 2 | 5 | | 29 | |
| 30代 | 3 | 2 | 10 | 6 | 21 | | 1 | 0 | 0 | 5 | 6 | | 27 | |
| 40代 | 6 | 0 | 12 | 10 | 28 | 69 30.8% | 1 | 0 | 13 | 8 | 22 | 49 46.7% | 50 | 118 35.9% |
| 50代 | 7 | 0 | 26 | 8 | 41 | | 3 | 0 | 16 | 8 | 27 | | 68 | |
| 60代 | 4 | 0 | 26 | 22 | 52 | 103 46.0% | 1 | 0 | 15 | 9 | 25 | 42 40.0% | 77 | 145 44.1% |
| 70以上 | 11 | 1 | 17 | 22 | 51 | | 0 | 0 | 10 | 7 | 17 | | 68 | |
| 計 | 31 | 3 | 101 | 89 | 224 | | 6 | 0 | 57 | 42 | 105 | | 329 | |
| 比率 | 68.1% | | | | | | 31.9% | | | | | | | |

内容は長野県警察本部の発表時点のものです。

* 本通信に関するご質問・ご意見は「長野県観光部山岳高原観光課」mt-tourism@pref.nagano.lg.jp までお寄せください。

冬山における安全登山の呼び掛け

1 趣旨

12月25日、26日と八ヶ岳連峰で相次いで山岳遭難が発生し、統計史上最多となる301件の遭難を記録するなど、年末年始を前に冬山における遭難の多発が懸念されることから登山者等に改めて注意を呼び掛けるものです。

2 具体的な注意点

(1) 事前の気象情報の確認

冬山の安全は、気象条件に大きく左右されます。「低気圧の通過」「寒気の流入」「強い冬型の気圧配置」等の予報があれば、標高の高い山岳地帯は猛吹雪等の悪天になります。必ず事前に気象情報を確認してください。

(2) 余裕を持った計画

冬山は、積雪等によって予定よりも多くの行動時間を要します。また日照時間も短いため、余裕を持った計画を心掛けてください。

(3) 装備品の携行

アイゼン、ピッケル等の雪上装備のほか、特にバックカントリースキーをする場合は、雪崩ビーコン、スコップ、プローブ等の雪崩対策装備を必ず携行するとともにアクシデントに備え、ビバーク(緊急露営装備や非常食等)も必ず携行してください。

また、冬季は寒冷環境の影響で携帯電話のバッテリーの消耗が早くなります。携帯電話はいざという時の重要な通信手段です。予備バッテリーを携行する等、対策を万全にして入山してください。

(4) 雪崩に対する警戒

年末年始にかけて長野県内では天候が崩れ、その後全国的にも気温が高い日が続く予報が発表されています。できるだけ雪崩リスクの高い地形での行動は避けるとともに行動中は雪崩に十分警戒してください。

(5) 登山計画書の作成と共有

入山する際は事前に計画書を作成し、提出してください。特に単独登山中に遭難した場合は、登山計画書が唯一の手掛かりになることがあります。作成した計画書は、帰りを待つ家族や友人にも必ず共有をしてください。

3 その他

長野県警察ホームページ「山岳情報」及び「長野県警察山岳遭難救助隊公式X」で冬山遭難防止に関する情報発信をしていますので、是非入山前に御覧ください。